

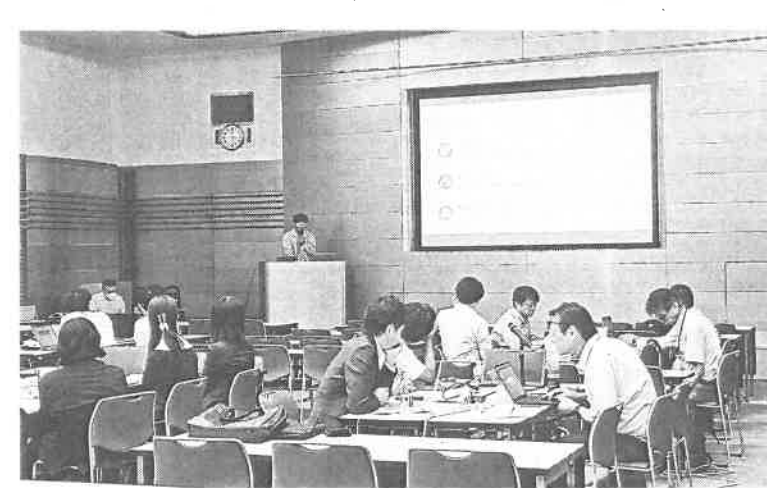


発行所
中連日報社

5班が課題解決アイデア発表 若手企画のワークショップ開催 SP会中四国支部

空間情報総括監理技術者の資格認定者で組織するスペシャリストの会(SP会)中四国支部(越智貴政支部長)は14日、広島市中区の広島県情報プラザで「若手の声でつくるスペース・ポータルin中四国セミナー」

を開いた。若手3班・ベテラン2班の計5班が、地理空間情報技術を活用した課題解決アイデアをワークショップ形式で検討し、成果を発表した。セミナーは、若手技術者が実行委員として企画・運営に携わった初の取り組みで、日本測量協会中国支部も共催した。冒頭、越智支部長(荒谷建設コンサルタント)は「課題発見力や技術活用能力、企画説明力、コミュニケーション力の向上を期待しているが、何よりも会社の垣根を越えた新しいつながりが生まれる場になることを目標としている」とあいさつした。



アイデア発表のもよう

ワークショップには、相生エンジニアリング、荒谷建設コンサルタント、ウエスコ、NTTデータ中国、田中技研コンサルタント、中電技術コンサルタント、日本測量協会、復建調査設計から技術者22人が参加。

参加者は5班に分かれ、「文化・観光」「維持管理」「業務・データ」「地域・暮らし」「防災」のテーマをくじ引きで決

定し、実現性にとらわれない自由な発想でアイデアを出し合い、その成果を発表した。

「文化・観光」班は、城内や文化財を3Dデータ化し、WEB地図やARで現地回遊を促す仕組みを提案。「維持管理」班は、老朽化が進むインフラを少人数で安全に点検する「データ・AI・遠隔」の分業化モデルを提示した。

「業務・データ」班は、「GIS×AI×衛星データ」を軸に、地図上から業務成果や測量データを迅速に検索できる仕組みを発表。「地域・暮らし」班は、人・車両・荷物・生活サービスをGISで連携し、日常の不便や災害時の孤立を解消する移動・物流インフラを説明した。

「防災」班は、災害後の「現場に行けない」「通れる道が分からない」といった課題に着目。防犯カメラ映像の3D点群化や、MMSレーザによる通行可能ルートへのAI判定などを提案した。発表後には参加者全員で1位を選ぶ投票が実施され、「防災」班が最多票を獲得した。

講師で越智支部長は「どれもワクワクする素晴らしいアイデアだった」と述べ、①技術より先に誰の困りごとかを考える②複数の地理空間情報技術を組み合わせる③若手・ベテラン、異なる業務の考え方を知る④会社を越えて相談できる人を増やすの4点を参加者に持ち帰るよう呼びかけた。